

平成31年4月1日
京都市立川岡小学校

平成31年度 学校経営方針

I 平成31年度 学校教育の重点

1 京都市の学校教育・目指す子ども像

「伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を創造する子ども」

○京都が育んできた伝統と文化に立脚し、広い視野と豊かな感性を持ち、よりよい人生や社会を創造する子ども

○学校教育をはじめ様々な学びを生かし、社会的・職業的自立を果たす子ども

○多様な他者と共に生き、学び合い、人権文化の担い手となる子ども

2 学校教育において重視する視点

○子どもの「主体性」と「社会性」の育成を目指して、「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を学校・幼稚園全体の教育活動の中で高める

○カリキュラム・マネジメントの視点のもと、PDCAを意識し、教育課程に基づき、組織的かつ計画的に日々の教育活動の質の向上を図り、子どもの姿や地域の状況に応じた創意あふれる取り組みを展開する

III 平成31年度 本校の教育目標

「豊かに たくましく 生きる子の育成」～学力の向上と社会性の育成～

1 目指す子ども像

「進んで学ぶ子」

「心豊かな子」

「体を大切にする子」

2 目指す教師像

「使命感と向上心を持ち続け、学び続ける教職員」

「チームワークを大切にし、共に学び・高めあう教職員」

3 目指す学校像

「自ら進んで学び、楽しい学習の積み重ねができる学校」（確かな学力）

「やさしさいっぱい、自分も友だちも大切にできる学校」（豊かな心）

「健康や安全の知識をもとに行動できる学校」（健やかな体）

IV 基本方針

1 「学力の向上」について

(1) 「確かな学力」の育成

- 主体的・対話的で深い学びの具現化（問題解決的な学習の実践）
- すべての教科で基礎基本の定着を図る
- 計画的・系統的・意図的な指導と評価（カリキュラム・マネジメントの視点）
- 「豊かな学び」を通して「確かな学力」を
- 校内研究を核とした、授業改善
- 学級集団を学び、高めあえる集団に
- 毎時間ならびに単元を通しての「つけたい力」を明確にした授業
- 「めあて」から「振り返り」までが整理された板書・ノート
- 焦点化児童を中心に据え、様々な支援の必要な児童への適切な関わり
- 学習規律の徹底（川岡校の学習スタイル）
- 家庭学習（学年×10分）の定着・徹底

(2) 「自ら学ぶ力」の育成

- 教師主導型の学習から問題解決的な学習への転換
- 学習問題（自分のやりたいこと）を明確にして臨める授業の展開
- 個に応じた支援の充実
- 「わかった」「できた」の喜びを実感できる授業を
- 小さながんばりや伸びもひろいあげる指導者の確かな目
- 単元を通して「やればできる」をすべての児童に
- 家庭学習の充実（個にあった自主学習の充実）

2 「社会性の育成」について

(1) 5つの行動目標

- 自らを律し、「守らされているもの」からの転換・脱却
- 進んで挨拶（コミュニケーション力の育成、感謝の気持ちも）
- 集会への参加の仕方（場に応じた態度の育成、相手意識の育成）
- 清掃活動（責任感の育成、責任と分担）
- 廊下の歩行（安全に留意した態度の育成、廊下・渡り廊下の歩行）
- 5分前行動（主体性の育成、チャイム5分前に教室に向かう）

(2) 「豊かな心」の育成

- 自尊感情を高め、自他共に大切にできる豊かな心を育む
- やさしさと思いやりのあふれる学校に

○見逃しのない観察、手遅れのない対応、心のかよった指導を行い、いじめを許さない学校体制をつくる。

○道徳教育の充実、「なかまの日」の充実

○規範意識の育成

○多様性を理解する姿勢の涵養

(3) 「健やかな体」の育成

自分の体に关心をもち、自分の体を大切にできる子どもに

○ジャンプアップ研究推進事業指定校（H30.H31）

○保健教育・健康教育の充実

○食に関する指導の充実

○飲酒・喫煙・薬物に関する指導の充実

○安全教育の充実

3 その他

「働き方改革」の推進

○教職員が生き生きと働くことができる環境に

V おわりに（チーム川岡）

共通理解で終わらず共通行動を

○決めたらやる

○必ずやる

○みんなでやる

子どもはほめて育てる

○子どもの限界を決めてしまわず、限りない可能性を信じて指導を

○タイミングを逃さず、本当に頑張ったことを

○厳しくすることも信念をもって（毅然とした態度で、叱る。）

初心を忘れず≠初心忘るべからず

○初志とは、はじめに思い立った希望や考え。この職に就こうと志した時のことわざを忘れずに

主役は子ども、基準も子ども、みんなが輝ける学校に